1364

蓼ト發動機船衝突附査問

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

軍務局

三六四 昭和一二年一二月一五日 軍務

第二遣外艦隊司令官

第一課長 局員

海軍大臣

二遣電二二二

第二十八駆逐隊司令報

第二遣外艦隊

第二、遣ヲ率ヒ旅順ニ向フ霧中航行中午后四時十九分第七老虎尾燈墓ノ南七浬ハニテ下関警戒機船第二哨戒艇ト衝突 警戒機船大破行衝不明 一午后六時迄捜索セシモ濃霧ノ為捜索不能トナリ中止午后七時黄金山ノ南三浬附近ニ假泊、警戒機船ハ假泊地ニテ沈没セリ

四日

6.5 軍務

1365

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

憲警第二七八號

第二十八驅逐隊參ト地方發動汽船ト衝突ス

昭和三年六月拾壹日

憲兵司令官 峯 幸松

憲兵大臣岡田啓介殿

第二十八驅逐隊參ハ六月三日午後四時十九分當港ヲ出港ス途次第一課長局員ハ港口方面ヨリ旅順ニ入港ス

第一課長局員ハ港口方面ヨリ旅順ニ入港ス

旅順港口老虎尾燈台東南方四哩ノ位置ニ於テ地方發動汽船（二十五噸）ト衝突シ之ヲ沈没セシメ乗員一名ハ行衛不明二名ハ輕傷ヲ負ヘリ其ノ狀況左記報告ス

副官

法務

軍務

人事

六月十四

官房受

六月拾貳日

法務局 3.6.13 接受

6.12

1366

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

左記

一、沈没シタル汽船ノ種類、船籍、船名、及所有者

漁業用二十五噸ノ發動汽船ニシテ船籍下関、船名第二明玄丸、所有者ハ

下関市伊崎町二三二番地　市川マツ

二、乘組員

原籍　高知縣長岡郡三里村種崎七之番屋敷

現住所　下関市新地町一二

船長　浜田市松（三十五年）

外　日本人男六名

三、當時ノ狀況

洲及レル第二明治九ハ第一明治九ト共ニ大運ヲ根
據地トシテ芝罘龍口方面ニ航行漁業ニ從事
シ居ルモノニシテ六月三日正午通例ノ如ク兩漁船ハ
夫運ヲ發シ龍口ニ到ルヘク五力至大節ノ速力
ニテ同日午後四時十九分頃遭難ノ位置ヲ
航行シ來タレリ　又駆逐艦　夢ハ六月二日蓮ト
共ニ營口ヲ發シ旅順ニ向テ航行シ六月三日午後
四時十九分衝突箇所ニ達セリ當時關東州
近海一帯濃霧ニ包マレ全ク透視困難ノ狀態
ナリシカハ當直二十九名ハ全員カ甲板ニ於テ見
張勤務ニ服シ一方サイレン信號ヲ爲シツツ航行

ヤリ怒ルニ沈船側ハ第一、第二明玄丸共ニ何等ノ信號ヲ為サザリシ為全ク所在ヲ知ルニ由ナク偶〻衝突直前突嗟ニ發見シタルモ時既ニ遅ク蓼ハ前方ヲ横切ラントスル第二明玄丸右舷後驅ニ衝突シ之ヲ沈没セシメタルモノナリ

四、損害狀況

(一)地方汽船側

イ、乘組員ノ死傷

長崎縣西彼杵郡小ヶ倉村池島清(二十四年)八行傷不明トナリ外乘組員二、頭部或ハ脚ニ軽傷ス

ロ、船体機関ノ見積損害額約四千円

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

八、積載物件（乗組員個人ノモノヲ除ク）重油、揮發油、其他合計約五百円

二、乗組員私物金品約百五十円

合計約四千六百五十円

(二)淦軍側

被害ナシ

五、淦軍側ノ處置

蓼ト連ト協力乗組員ノ救助ニ努メ船長決由市松外五名ヲ救助シ得タリシモ船員清八睡眠中ナリシ為其ノ機ヲ失シタルモノノ如ク遂ニ行衛不明トナリ未タニ死体ヲ発見スルニ至ラズ而シテ

収容後負傷者ハ急急ノ治療ヲ施シ大月二日夜
第一明治丸ヲ以テ伴ヒ旅順港ニ入港其旨海防局ニ
届出ヲ又佐世保鎮守府ニ報告セリ其他所在
不明トナリタル池島清ニ対シテハ金一封ヲ見舞ト
シテ贈與シタルカ罹災者側ニ自己ノ不注意ナリシ
ヲ自覚シ特ニ不平的言動ナシ而シテ罹災者ハ
一昨日旅順ニ滞在ノ上第一明治丸ニテ大連ニ引返
シタル上下関ニ帰航スト云フ

(3)

第二遣外艦隊機密第三六號

昭和三年七月十六日 芝罘旗艦球磨

第二遣外艦隊司令官

海軍大臣殿

第一課長 査問委員 組織ノ件

第二遣外艦隊玄丸衝突事件ニ関シ査問会ヲ組織セリ

右報告ス

第二遣外艦隊司令官

事件概要 一通添

(終)

法務局 3.7.26 受接

1372

菊多第二明玄丸衝突事件概要

昭和三年六月三日第二十八駆逐隊（達見）營口ヨリ旅順ニ向ケ航行中同日午後四時十九分濃霧中老虎嶋燈台ノ南東四浬八ノ地点ニ於テ一番艦菊多ハ下ノ関伊崎町三二番地市川マツ所有發動機船第二明玄丸（三五噸）ニ衝突之ヲ大破シ船員中行衛不明一軽傷ニヲ出シ船体ハ旅順ニ航中流失セリ

菊多ニ損害ナシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

1374

事務局

第一課長 局員 陸田 大田 保科 局員

第一課長

第一遣外艦隊機密第六九號

昭和三年九月三日 青島警備艦隊

第二遣外艦隊司令官

海軍大臣殿

（第二明治丸衝突事件査問會査定書 二通）

（第一遣外艦隊司令官報告書類 一括）

右提出ス

（別紙添）

（終）

副官

覽閲

海軍人事課 3.10.4

法務局 3.9.14 接受

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

司令官	機關長	甲参謀	副官	乙参謀	丙参謀
/		✓	✓	/	/

1375

球磨機密第六二號

昭和三年八月二十七日　旅順

査問會委員長　海軍大佐　林　義寛

第二遣外艦隊司令官　向田金一殿

英艦ト明安丸衝突事件査問會査定書　一通

右提出ス

（別紙添）

受付 3.[illegible].1
法務局 3.9.14 接受

1376

閲

第參第二明玄丸衝突事件審問會審定書

第一 衝突顛末

一、事實

駆逐艦第二十八駆逐隊ノ一番艦トシテ合隊司令乘艦指揮ノ下ニ二番艦蓮ト共ニ昭和三年六月三日午前四時三十分菅口出港順番號單縱陣原速力十二節ヲ以テ旅順ニ向ケ航行中同日午後三時二十五分老鐵山西角燈台ヲ磁針方位東巨離一浬半ニ見ル地点ヨリ鍼路南四十度東ニテ航過スル頃ヨリ濃霧來襲視界百三(三)十米内外トナリシヲ以テ同隊司令ハ旅順港外ニ接近シ碇船航路ヲ避ケテ假泊セントス決心セリ然ルニ同隊ハ翌朝五月二十六日大沽ヨリ旅順ニ回航ノ途該地点附

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

近ニ於テ濃霧ニ會シ半速力ヲ以テ航進シタル結果潮流ノ爲著シク偏位セシ經驗ニ鑑ミ同人ハ陸岸ヨリ十分離隔セル航路ヲ取リ且入港針路ニ入ル迄ハ最慣熟セル本速力十二節ニテ航行スルニ決シ午後三時五十五分推定位置老鐵山西南燈台南東三浬九ニ於テ東ニ變針ヲ令セリ

午後四時二十分ニ至ラハ半速力トシ北ニ變針豫定假泊位置ニ向針スルノ企圖ヲ以テ令十七分先ツ無線通信ニ依リ半速力ヲ令シ二番船ノ了解ヲ待チリ

夢艇逐艦長ハ濃霧來襲セントスルヤ自ラ艦ノ操縱ニ任シ霧中標的ヲ入レ電働測深儀ヲ準備シ艦首艦橋及檣樓等ニ見張員十五名ヲ增加

配置シ内数名ヲシテ専ラ聽音ニ努メシメ探照燈ヲ点シテ二番艦ニ指向セシメ衝突豫防法所定ノ汽笛ヲ吹鳴ハツ、警戒ヲ厳ニシテ航行セリ時ニ風向南東風力一豫想潮流方向東流速二乃至三節海上ノ模様和視界約百二(三)十米ナリ午後四時十九分見張員ヨリ「発動汽船ノ音カ聞エマスシ」ノ報告アリ同時ニ右舷ヨリ疑迫船長ハ船首目測約百米附近ニ左舷ヨリ右舷ニ目測交角三十度ヲ以テ航過セントスル発動汽船(第一明玄丸)ヲ認メ直ニ停止取舵一杯後進全速ヲ令シ汽笛短三声ヲ吹鳴セシメ漸ク轉舵後進利キ始メ僅ニ第一明玄丸右舷ニ交リタル際更ニ左舷艦首約1/2点目測巨離七十米附近ニ直進シ来ル他ノ

発動機船（第二明玄丸）ノ前半身ヲ発見セリ
当時既ニ機械反轉前進惰力減退シ船首旋
旋回ヲ始メ居タルヲ以テ左回頭ノ儘避航スルノ外ナシト
認メ且之ニ依リ概避ヲ得ルモノト信シタルニ午後四
時二十分第二明玄丸ノ右舷側船尾ヨリ約三米ノ所
ニ交角約三十度ヲ以テ衝突セリ
第二明玄丸カ右舷側ニ沿ヒ船尾ニ交リタルヲ見テ機
械ヲ停止シ次テ二番艦運ノ接近スルヲ認メタルヲ以テ
前進全速ヲ令シ午後四時二十一分両舷機停止投
錨救助作業ニ従事セリ
之ヲ先第二明玄丸ハ傍船第一明玄丸ト共ニ
龍口漁場ニ出漁ノ目的ヲ以テ昭和三年六月三日
正午大連出港午後一時半頃帽島ヲ左舷風

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一鏈ニ見南西イ西ヲ至西南西ノ鍼路ヲ以テ船長濱田市松操縱舵夫ヲシテ操舵セシメツ運力五節半ヲ至六節第一明玄丸ノ右舷横後方ニ並行セリ午後四時十五分頃ヨリ右舷前方ニ汽船ノ霧中號笛ヲ聞キシモ十分交ハル文ノ余祐アリト認メ何等ノ處置ヲナサス（號笛汽燃ハ用意シアリシモ使用セズ）午後四時十九分凡リ右舷船首百米ニ英ヲ認メタルモ最早回避スルノ余祐ナシト認メ後進用意ヲ命シタル儘直進シ間ナク航過シタル頃面舵一杯停止シタルモ遂ニ右舷後半ニ衝撃ヲ受ケ破損シ後遂ニ沈没スルニ至リ乗員七名中伊豆味正信及松山喜一ノ両名軽傷ヲ負ヒ池島清一ハ行衛不明トナレリ

二、衝突後ノ處置

午後四時二十三分蒙ハ第一第二カッター及内火艇ヲ卸シ蓮ノ救助艇ト協力シ第二明玄丸ノ船体並ニ其ノ救助艇ト捜索ニ努メタルモ遂ニ前記一名ノ行衛不明者ヲ生シ船体ハ蓮ニ曳航セラレ旅順ニ向フ途中遂ニ沈没セリ蒙ニ損害ナシ

蓮ハ午後四時十七分無線通信ニ依リ蒙ノ令ヲ受ケ直ニ蓮ト共ニ蒙ト少シク離ル次テ汽笛短ク三声ヲ鳴ラシ停止面舵ニ轉舵セシニ直前ニ第二明玄丸及其ノ被曳ヲ認メ更ニ面舵ニ轉舵船長代リテ操縦後進原速次テ遭難船ニ近ツキ救錨救助艇ヲ卸シ救助ニ努ムルトサハニ遭難船ヲ舷側ニ横付シ更ニ行衛不明者ノ捜索ニ努メタ

んモ之ヲ発見スルヲ得ズ午後五時十分命ニ依リ
第二明玄丸ヲ横浜ノ儘旅順ニ向ヒ途中移
動御筒二個ヲ以テ遭難船ノ排水ニ努メタルモ
漫水漸次増加シ午后六時十三分旅順港外
假泊後曳索切断遂ニ之ヲ流失セリ
翌六月四日天候晴風向東北東風力五ー六海
上荒模様ナリシモ午後一時ヲ以テ曳船二隻及民
政署汽艇長風丸其他発動汽船二隻ヲ以テ海
軍中尉田中豊吉指揮ノ下ニ現場附近ヲ捜
索セシメ死体ヲ発見スルニ至ラズ
第二、衝突ノ原因及其ノ理由
衝突ノ原因ト認ムベキモノ左ノ如シ
(一)農務中視界ノ極メテ小ナリシ為相互発見已

離避ヲナリシコト

(二)第二明玄丸カ衝突豫防法ヲ守ラサリシコト

(イ)霧中航行中規定ノ音響信號ヲ爲サス

(ロ)他船ノ音響ヲ聞キタル時モ之カ方向距離等更ニ確ムヘキ方法ヲ講セス速力ノ遲減其ノ他回避ノ手段ヲ執ラス

(ハ)霧ヲ発見シタル際ニ於テモ何等ノ處置ヲ講ズ(霧ノ船首ニ近ツキテ初メテ面舵ヲ取リ機械ヲ停止シタリ)

理由

疑遂船霧ノ中航行ニ必要ナル處置ヲ講シ且第一明玄丸ヲ船首近距離ニ認メタルヤ直ニ轉舵後進等適當ノ處置ヲ執リタルヲ以テ第一明玄丸

ノ轉舵回避ト相俟テ双互ニ避航スルヿトナリ

タリ

然ルニ第二明玄丸発見ノ際ハ既ニ機械ヲハ後進全速トナリ船ノ行足ハ轉舵ニ依レ速力減減ト相合シテ著シク減退シ居タルノミナラス取舵一杯ニテ回頭中ナリシヲ以テ之以上策ヲ施スノ余地ナカリシモノト認ムヘク第二助玄丸ニテ衝突数分前夢ノ霧中信號ヲ聽キタル際幾分ノ注意ヲ拂ヒ機械停止又ハ減速等ニ依レ直接回避ノ手段ヲ講シ或ハ之ニ依リ更ニ汽笛ノ方向距離針路等ヲ確ラメノ手段ニ出テ且夢ノ発見後轉舵減速等何等カノ處置ヲ講シタランニハ十分回避シ得タリシマト第

一明玄丸ノ例ニ徴シ明カナリ

即本衝突ノ原因ハ全然第二明玄丸ノ衝突豫防法ヲ無視シタルコトニ基因スルモノト認ム

尚第ノ速力十二節ナリシコトカ衝突ノ原因ナリシヤ否ヤニ付研究ヲ遂ケタル処次ノ如シ

航行船舶及漁舟等存在ノ虞アル旨既記ノ如キ海面ニ於テハ視界狹少ノ際適宜速力ヲ減少スルコトハ衝突豫防ノ一手段ニシテ若シ之ヲ半速力以下ニ減シ居タラシニハ発動機船巻見後ノ處置ヲ實施スルニ余裕ヲ生シ且衝突ノ場合ニ於テモ損害ヲ一層軽微ニ止メ得タリシナラント認メラル即視界百三十米内外ニ於テ二等駆逐艦ノ二隻編隊速力十二節ハ計画

トシテ適當ナリト認ムル能ハサルモ模型駆逐艦ノ操縦性ニ對スル試驗成績及實驗ニ徴スルニ當前百三十度内外ノ停止(漂泊)目標ニ對シテハ十二節航行中ト雖概回避シ得ヘク對手艦船カ移動スルモノニアリテハ對手カ規定ノ衝突豫防法ヲ適當ニ實施スルニ於テハ十分回避シ得ルモノト認ム即十二節ノ速カハ討亟上適當ナリトハ謂フ能ハサルモ之ヲ以テ本衝突事件ノ原因ト斷スルヲ得ス

音響ノ通達距離ニ関シテハ自艦ノ驀進ト風向風力氣圧等ノ關係ニ依リ一概ニ斷スル能ハス互ニ今少シク早目ニ對手ノ音響ヲ聽キ何等カノ處置ヲ講シタラシニハ衝突ヲ免レ得タルヲト

ノ感ナキ能ハスト雖モ之ニ於テハ音響聽取ノ
爲特ニ人ヲ配シ居タルニ係ル自艦發音及風
上ノ位置セシ間係ニ依リ別遠ニ船体発見迫
発動機音ヲ聽取シ得サリシモノニテ之ヲ以テ音
響聽取ヲ怠リタルモノ認ムル能ハス一方第二明
玄丸ハ敵ノ発見数分前ヨリ汽笛ヲ聽取シ作ヲ
何等ノ處置ヲ講セサリシマト前記ノ如クニシテ大
ナル怠慢ナリト認ム
之ヲ要スルニ本衝突ノ原因ハ全然第二明玄丸ノ
衝突豫防法違反ニアリト認ム
第三、責任ニ關スル所見
本衝突事件ノ直接原因ハ前號ノ如ク全然第
二明玄丸ノ衝突豫防法違反ニアリテ用船々

長ノ責任ニ属スト認ム

前記運力ニ関シテハ潮流強キ海面ニ於ケル艦位保持上ノ必要モアリ殊ニ型既逐艦ノ操縦性ニ鑑ミ當時ノ運力十二ケ節ハ少スシモ過大ナリト断スルヲ得ス又見張等ニ對シテモ當時十分ノ手段ヲ講シアリシノミナラズ発見後ノ處置亦十分全ニ行ハレタルモノニシテ之カ責任ヲ問フヘキ限ニアラスト認ム

査問委員長海軍大佐 林 義寛

査問委員 海軍中佐 越智序平

査問委員 海軍少佐 岡野慶三郎

査問委員 海軍少佐 小野寺辰蔵

海軍

査問委員 海軍大尉 潜口 [illegible]

意見

事實闡明セラレタルモノト認ム 委員ノ所見ニ同意ス

昭和三年九月三日

第二遣外艦隊司令官 向田 [illegible]

第一 菊多第二明玄丸衝突事件審問會審定書

第一 衝突顛末

一、事實

駆逐艦菊多ハ第二十八駆逐隊ノ一番艦トシテ令隊司令乘艦指揮ノ下ニ二番艦蓮ト共ニ昭和三年六月三日午前四時三十分當口出港順番號單縱陣原速力十二節ヲ以テ旅順ニ向ケ航行中同日午後三時二十五分老鐵山西角燈台ヲ磁針方位東三巨離一浬半ニ見ル地点ヲ鍼路南四十度東ニテ航過スル頃ヨリ濃霧來襲視界百ニ三十米内外トナリシヲ以テ同隊司令ハ旅順港外ニ接近シ商船航路ヲ避ケテ假泊セントス決心セリ然ルニ同隊ハ翌二五月二十六日大沽ヨリ旅順ニ回航ノ途該地点附

近ニ於テ濃霧ニ會シ半速力九節ニテ航進シタル結果潮流ノ爲著シク偏位セシ經驗ニ鑑ミ司令ハ陸岸ヨリ十分ノ離間隔セル航路ヲ取リ且入港針路ニ入ル迄ハ最慣熟セル原速力十二節ニテ航行スルニ決シ午後三時五十五分推定位置老鐵山西南燈台ノ南東三浬九ニ於テ東ニ變針ヲ令セリ

午後四時二十分ニ至ラハ半速力トシ北ニ變針豫定假泊位置ニ向針スルノ令ヲ以テ令十七分先ツ無線通信ニ依リ半速力ヲ令シ二番艦ノ報ヲ解ヲ待チリ

蓼疑逐艦長ハ濃霧來襲セントスルヤ自ラ艦ノ操縱ニ任シ霧中標的ヲ入レ電働測深儀ヲ準備シ艦首艦橋及檣樓等ニ見張員十五名ヲ增加

配置シ内数名ヲシテ専ラ聽音ニ努メシメ探照燈ヲ点シテ二番艦ニ指向セシメ衝突豫防法所定ノ汽笛ヲ吹鳴シツヽ警戒ヲ嚴ニシテ航行セリ時ニ風向南東風力一豫想潮流方向東流速二乃至三節海上ノ模様和視界約百二(三)十米ナリ午後四時十九分見張員ヨリ「発動汽船ノ音カ聞エマスシ」ノ報告アリ同時ニ麥駆逐艦長ハ艦首目測約百米附近ニ左舷ヨリ右舷ニ目測交角三十度ヲ以テ航過セントスル発動汽船(第一明玄丸)ヲ認メ直ニ停止取舵一杯後進全速ヲ令シ汽笛短三声ヲ吹鳴セシメ漸ク轉舵後進利キ始メ僅ニ第一明玄丸右舷ニ交リタル際更ニ左舷艦首約乃至目測三離七十米附近ニ直進シ来ル他ノ

発動機船（第二明玄丸）ノ前半身ヲ発見セリ
當時既ニ機械反轉前進惰力減退シ船首旋
旋回ヲ始メ居タルヲ以テ左回頭ノ儘避航スルノ外ナシト
認メ且之ニ依リ概避ヲ得ルモノト信シタルニ午後四
時三十分第二明玄丸ノ右舷側船尾ヨリ約三米ノ所
ニ交角約三十度ヲ以テ衝突セリ
第二明玄丸カ右舷側ニ沿ヒ船尾ニ交リタルヲ見テ機
械ヲ停止シ次テ二番艙蓋ノ接近スルヲ認メタルヲ以テ
前進全速ヲ令シ合四時三十一分両舷機停止投
錨救助作業ニ従事セリ
之ヨリ先第二明玄丸ハ僚船第一明玄丸ト共ニ
龍口漁場ニ出漁ノ目的ヲ以テ昭和三年六月三日
正午大連出港午後一時半頃帽島ヲ左舷凡

一鏈ニ見南西ノ西乃至西南西ノ航路ヲ以テ船長濱田市松操縱舵夫ヲシテ操舵セシメツヽ速力五節半乃至六節第一明玄丸ノ右舷前後方ニ並行セリ午後四時十五分頃ヨリ右舷前方ニ汽船ノ霧中號笛ヲ聞キシモ十分交ハル文ノ余祐アリト認メ何等ノ處置ヲナサス(號笛汽燈共用意シアリシモ使用セス)午後四時十九分凡ソ右舷船首百米ニ黄ヲ認メタルモ最早回避スルノ余祐ナシト認メ後進用意ヲ命シタル儘直進シ異航過シタル頃面舵一杯停止シタルモ遂ニ右舷後半ニ衝撃ヲ受ケ破損シ後遂ニ沈没スルニ至リ乗員七名中伊豆味正信及松山書一ノ両名軽傷ヲ負ヒ池島清一ハ行衛不明トナレリ

二、衝突後ノ處置

午後四時二十三分蓼ハ第一第二カッター及内火艦ヲ卸シ蓮ノ救助艦ト協力シ第二明玄丸ノ船体並乗員ノ救助捜索ニ努メタルモ遂ニ前記一名ノ行衛不明者ヲ生シ船体ハ蓮ニ曳航セラレ旅順ニ向フ途中遂ニ沈没セリ蓼ニ損害ナシ

蓮ハ午後四時十五分無線通信ニ依リ前進速ノ令ヲ受ケ直ニ前進速トナシタル後蓼ト少シク離ル次テ信号短三声ヲ聞キ停止面舵ニ轉舵セシモ直前ニ第二明玄丸及其ノ破片ヲ認メ更ニ面舵ニ轉舵艦長代リテ操縦後進原速次テ遭難船ニ近ツキ救錨救助艦ヲ卸シ救助ニ努ムルト共ニ遭難船ヲ舷側ニ横付シ更ニ行衛不明者ノ捜索ニ努メタ

ルモ之ヲ発見スルヲ得ス午後五時十分命ニ依リ
第二明玄丸ヲ横浜ノ儘旅順ニ向ヒ途中移
動喞筒二個ヲ以テ遭難船ノ排水ニ努メタルモ
漫水漸次増加シ午后六時十三分旅順港外ニ
碇泊後曳索切断遂ニ之ヲ流失セリ
翌六月四日天候晴風向東北東風力五ー六海
上荒模様ナリシモ午後一時ヲ以曳船二隻及民
政署汽艇長風丸其他発動汽船二隻ヲ以テ海
軍中尉田中豊吉指揮ノ下ニ現場附近ヲ捜
索セシメ死体ヲ発見スルニ至ラス
第二、衝突ノ原因及其ノ理由
衝突ノ原因ト認ムヘキモノ左ノ如シ
一、濃霧中視界ノ極メテ小ナリシ為相互発見已

離過小ナリシマト

(二)第二明玄丸カ衝突豫防法ヲ守ラサリシマト

(イ)霧中航行中規定ノ音響信號ヲ爲サス

(ロ)他船ノ音響ヲ聞キタル時モ之カ方向距離等更ニ確ムヘキ方法ヲ講セス速力ノ減減其ノ他回避ノ手段ヲ執ラス

(ハ)夢ヲ発見シタル際ニ於テモ何等ノ處置ヲ講セス(夢ノ艦首ニ近ツキテ初メテ面舵ヲ取リ機械ヲ停止シタリ)

理由

駆逐艦夢ハ霧中航行ニ必要ナル處置ヲ講シ且第一明玄丸ヲ艦首近距離ニ認ムルヤ直ニ轉舵後進等適當ノ處置ヲ執リタルヲ以テ第一明玄丸

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノ轉舵回避ト相俟テ双互ニ避航スルヿヲ得タリ

然ルニ第二明玄丸発見ノ際ハ既ニ機械ハ後進全速トナリ船ノ行足ハ轉舵ニ依レ速力迅減ト相合シテ著シク減退シ居タルノミナラス取舵一杯ニテ回頭中ナリシヲ以テ之以上策ヲ施スノ余地ナカリシモノト認ム〳〵ル第二明玄丸ニテ衝突数分前霧ノ霧中信號ヲ聽キタル際幾分ノ注意ヲ拂ヒ機械停止又ハ減速等ニ依ル直接回避ノ手段ヲ講シ或ハ之ニ依リ更ニ汽笛ノ方向距離針路等ヲ確ムルノ手段ニ出テ且第三発見後轉舵減速等何等カノ處置ヲ講シタランニハ十分回避シ得タリシヿト第

一明玄丸ノ例ニ徴シ明カナリ

即本衝突ノ原因ハ全然第二明玄丸ノ衝突豫防法ヲ無視シタルコトニ基因スルモノト認ム

尚第参ノ速力十二節ナリシコトガ衝突ノ原因ナリシヤ否ヤニ付研究ヲ遂ケタル処次ノ如シ

航行船舶及漁舟等存在ノ虞アル以前記ノ如キ海面ニ於テハ視界狹少ノ際適宜速力ヲ減少スルコトハ衝突豫防ノ一手段ニシテ若シ之ヲ半速力以下ニ減ジ居タラシメハ発動機船発見後ノ處置ヲ實施スルニ余裕ヲ生シ且衝突ノ場合ニ於テモ損害ヲ一層微ニ止メ得タリシナラント認メラル即視界百三十米内外ニ於テ二等駆逐艦ノ二隻編隊速力十二節ハ到底

トシテ適當ナリト認ムル能ハサルモ蓋型駆逐艦ノ操縦性ニ對スル試験成績及實験ニ徴スルニ直前百三十碼内外ノ停止(漂泊)目標ニ對シテハ十二節航行中ト雖概回避シ得ヘク對手艦船カ移動スルモノニアリテハ對手カ規定ノ衝突豫防法ヲ適當ニ實施スルニ於テハ十分回避シ得ルモノト認ム即十二節ノ速力ハ計画上適當ナリトハ謂フ能ハサルモ之ヲ以テ本衝突事件ノ原因ト断スルコトヲ得ス

音響ノ通達距離ニ関シテハ自艦ノ騒音風向風力氣圧等ノ関係ニ依リ一概ニ断スル能ハス互ニ今少シク早目ニ對手ノ音響ヲ聴キ何等カノ處置ヲ講シタラシニハ衝突ヲ免レ得タラシト

ノ感ナキ能ハスト雖モ之ニ於テハ音響聽取ノ爲特ニ人ヲ配シ居タルニ係ラス自艦警音及風上ニ位置セシ關係ニ依リ遂ニ船体発見迄発動機音ヲ聽取シ得サリシモノニテ之ヲ以テ音響聽取ヲ怠リタルモノト認ムル能ハス一方第二期玄丸ハ夢発見數分前ヲ流笛ヲ聽取シ乍ラ何等ノ處置ヲ講セサリシマト前記ノ如クニシテ大ナル怠慢ナリト認ム

之ヲ要スルニ本衝突ノ原因ハ全然第二期玄丸ノ衝突豫防法違反ニアリト認ム

第三、責任ニ對スル所見

本衝突事件ノ直接原因ハ前號ノ如ク全然第二期玄丸ノ衝突豫防法違反ニアリテ同船々

長ノ責任ニ属スト認ム

前記速力ニ関シテハ潮流強キ海面ニ於ケル艦位保持上ノ必要モアリ菊型駆逐艦ノ操縦性ニ鑑ミ當時ノ速力十二ノットハ必スシモ過大ナリト断スルヲ得ス又見張等ニ對シテモ當時十分ノ手段ヲ講シアリシノミナラス発見後ノ處置亦十分全ニ行ハレタルモノニシテ之カ責任ヲ問フヘキ限ニアラスト認ム

査問委員長海軍大佐 林 義寛

査問委員海軍佐 越智存平

査問委員 海軍大佐 岡野慶三郎

査問委員 海軍少佐 小野寺丈藏

書面審査 御署名 清水

意見

事實關明セラレタルモノト認ム 委員ノ所見ニ同意ス

昭和三年九月三日

第二遣外艦隊司令官 向田金

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

司令官	艦長	参謀	副官	参謀	参謀
✓	✓	✓	✓	✓	✓

1404

二六駆機密第三二號

昭和三年六月四日

第二十八駆逐隊司令 原田文

第二遣外艦隊司令官向田宛

艦船衝突事件報告

駆逐艦夢第二号亥丸衝突事件別紙一件記録ノ通リ

右報告ス

別紙目録

第二号亥艦長聴取書

仝右 改正

第一号亥艦長聴取書

衝突事件記録

受付 3.6.10 二遣司令部

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

破損狀況

獨管記錄

勢新證書

運行動

運搬長第二船長及船員より聽取せし事項

證言

船員名簿

死体捜索

合右 附圖

計十三葉

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

聽取書

一、船名　第二明玄丸　船長濱田市松（三七）

船籍　福岡市

所有者　下関市大字伊崎町二百三十二番地

市川マツ

總噸数　二五、五九

乗員　船長共七名

龍鳳湯ニ出漁ノ為昭和三年旨三日正午大連出港、午後五時半頃帽島ノ船ヲ一隻ニ見テ南西ニ定針速力五節、五乃至六節、羅針自差十一度東偏

船長操縦シ舵夫ヲシテ操舵セシム

一、衝突前後ノ事情

三、四分前ヨリ右船前方ニ汽船ノ霧中警笛ヲ聞キ

未タ充分備ヘタル餘裕アリト思フタ
彈薬砲隊共用意シアリシモ使用セス
午後四時十九分丸ノ右舷船首百米ニ撃ツヲ認メタルモ
最早回避スルノ餘裕ナカリシヲ以テ機進用意ヲ命シタ
ル僅直進シ居ル間遂ニタルヲ望面舵一杯停止シタルモ
遂ニ船橋ニ衝撃ヲ受ケ破損ヲ以テ沈没スルニ至リ

右ノ事実ニ相違ナキ旨保証候

第弐明治九年　長崎　洪四市松

聽取書訂正

一、船名　第二明玄丸　船長　浜田市松（三七）

船籍　福岡市

所有者住所　関市伊崎ノ二百三十五番地

市河マツ

總噸數　二五噸五九

乗組　船長共七名

龍口港ヲ出港ス為ノ昭和二年六月二日正午大連出港ヲ后一時半頃帽島ノ尤鼓凡一鍵ニ見テ南西ニ定針速力五節ノ三六節羅針盤差十度以外ノ船舶ノ船長操縦シ能ハスシテ操舵セシム

二、衝突前后ノ事情

數分前ニ右舷ノ霧中号角ヲ聞キタリ号角ヲ

用意シたる使用ス

平戸の時ハ命ハ石脇船首面第一撃ヲ受メ
タルニ最早四時ニ余ル余裕ナカリシヲ以テ後進
用意ヲ命ジシ後直ニ異常過シタルヲ以テ
西船一隻停止シタルニ過ギ石脇船半ハ
御撃ヲ受テ破損以テ戦線ニ至レリ

京事実ニ相違ニ為ス

未ニ明方九四長佐田市右衛

第一明玄丸船長聽取書

一、船名　第一明玄丸　船長　寺井利三郎

船籍

所有者　下関市大字伊崎町二百三十二番地

市川マツ

龍口湾場ニ出漁ノ為昭和三年六月三日正午大連出港

午後一時半頃帽島ヲ眺ル一鏈ニ見テ西南西ニ定針

速力五節、五乃至六節、羅針自差ナシ　水夫長操縦ス

船長ハ船橋ニ[redacted]四周ノ状況ニ注意セリ

二、衝突前後ノ事情

凡三時二十分頃ヨリ右舷前方遠カニ警笛ノ吹鳴スルヲ聞キ

乗マヽ直進シ三回直径三寸ノ法螺貝ヲ使用セリ

午後四時十八分頃船前方凡百米ニ聴逐船ヲ認メタルヲ

以テ艦輪ヲ術 先転シ羅城路凡南西ニテ回遊セリ

若ノ事 良ニ遂ケ相 謝候

本一筆申上候 事利之 [illegible]

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第二明玄丸ト衝突事件記錄

六月三日午后四時十九分尤鐵山東角立標ノ南四十六度東四七哩ニ於テ發動汽船第二明玄丸ト衝突

所有者　下関市伊崎町三百三十二番地　市川マツ

船長　濱田市松

風向	南東	風力	一
天候	濃霧視界約二三〇米	海上ノ模様	和
我カ船ノ發程地	營口	目的地	旅順
針路	東	船首方位	東
力	一	燈光	二
予想潮流方向速力	北微西約一節半	記事	燈ヲ点ス

午后三時二十五分濃霧來襲迄矣氣晴朗船位ハ正確ニ測定セリ　六月二十六日旅順入港ノ際濃霧來襲シ平速力

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

（九節）ニテ航行シタルニ潮流ノ為メ非常ナル變位ヲ來セリ
之ニ鑑ミ此度ハ北ニ定針スル迄針路保持上十二節ニテ航行セリ

相手艦發見時刻	午后四時一九分	第一明光東微南五〇〇米	第二東北三〇〇米	方位	距離
燈光	ナシ	相手艦ノ霧笛其他霧中航行ノ合図ヲ取リオカザリキ		記事	

相手艦ノ推測進路	西南西	速力	六節	燈光
ナシ	ナシ	信號	記事	

衝突ヲ避クル為メ取リタル所置

午后四時十九分發動汽船ヲ艦首五十米以内ニ發見スルヤ直ニ機械停止取舵ヲ取リ後進全速短三聲次テ第一明号丸ニ衝突續イテ機械停止午后四時二十分運船尾ニ接近シタルヲ以テ前進全速